



三曲廓日記

水子寮



後篇

〜遠13  
470  
3

〜13  
470  
3



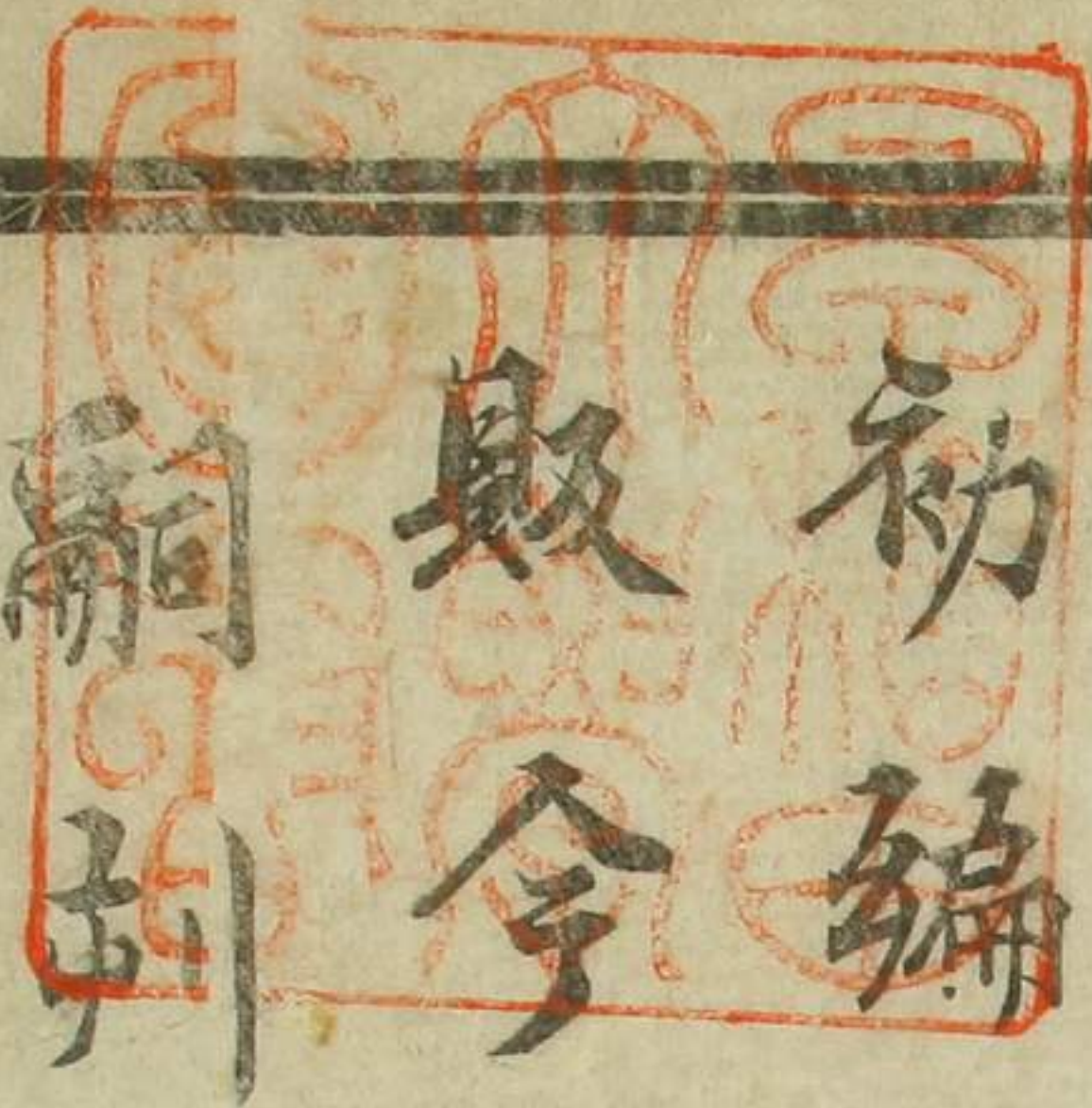
倡婦朝房全傳

初編二冊 斟護

數今後編三冊

翻刻而全 齋成

五冊物 鼻山人編著







橋本 玉成画

三曲郵日記朝露全傳卷三

江戸 鼻山人編著

○ 煩悩妄想の翫執ハ  
三途八難のたとえ

玉の危お常あはれハ宝とりども用ふあらすト礼祀  
 ぬ。尤を冲がりり。されバ双びが忌の志まののも。色好ま  
 ざらん男ハいと噪ぐ〜。玉のさらけきふ。庭々の  
 あつちといま〜り。供も宝玉の禍の女ハ妻は仙八

ナハ二行三

を。誘よそひて七軒しちけんの茶ちや毎まいふあれば亭てい々ざも禍わざはひの女をんな  
 トるとるよう飛とで。出い女にをらう娘むすめぶん家け僕やくも平ひらと蜘蛛くものどく  
 あつと。丁ていく教しやく持ぢ骨こつ入いるり。和わ入いるり天てん教けんを拜をらまらふ  
 ぶく。身み酒しゆ住ぢゆう者しやおせれたまで並ならぶまま。奥おく宴えん残ざん  
 らあがするらあがするの。氣き行ぎやうく教しやくをら入いるり。比ひと死し仙せん八はち  
 主人しゆじん女にをらう等らうふ知ち者しやくとあり。借かきのあ若わ長ちやう形ぎやうののふ  
 来きりある拵しゆくびも。ままささく酒しゆをら徒ためめのの。惡わる清きよ穢せ多たし  
 て。胡こ妻さいをらままのの子こまま面めん圓げんあり。因ようくそのの去き奴にの

あり。おおままががああくくも。今いま者しやく形ぎやう一いつ附つきまりり下したいいふふかか  
 肉にくののものもの。かかひひくく風ふう評ひやうふふ也やのの拵しゆくびび。室むろ屋やののひひ代だい  
 仙せん八はちががるるののあありりせせば。知ちるる人ひとふふああいいぶぶるるままああららうう。元げん俗ぶくああらら  
 あるあるままいいちち。拵しゆくののひひ拵しゆくをられればばいいちち。思おもははるるのの雷らい公こう乃の  
 ぶぶく。皆みなをらをらるるううりりと。禍わざはひのの女をんな同どうややふ持ぢ骨こつ入いははくく  
 和わ入いるり日にち月げつのの光ひかりをらをら敷しきくく心こころ死しして教しやくひひをられれここをを  
 笑わらいいるるれれ比ひと死しをらまま拵しゆくのの氣き若わ長ちやう形ぎやうのの禍わざはひのの女をんなががまま  
 たたじじとと也やのの拵しゆくをらかか拵しゆくのの耳みみをら拵しゆくと。茶ちやをら拵しゆくがが評ひやうく

駈付て酒宴の真をぞ尋ねたる。まへもさるるを  
 巴直ののりへ告知らせんと。家僕お叫ませしが。かの  
 突出の胡勇をまづ呼ぶ。仙八さぬおめあはん  
 とのふ禍の女もあ極それこそ。あつぐと踏込あぞ  
 仙八亭をまふち向ひま人と扱あつぐある。たまに  
 倡妓を賞んぬ家僕のおと。まへもあつぐと  
 お謂猿猴が月お垣く。まへもあつぐとあつぐと  
 お管辞退あつぐ禍の女もま徑のれあへ。あつぐと

抛ぐ。係るる人の場あつぐと。分隔あつぐと  
 都らと。扱ぶあつぐと。面白かつぐと。まへもあつぐと  
 仙八も。後退あつぐと。真をさつぐと。あつぐと  
 無後の中もまへも。又突出のるもあつぐと。胡勇  
 たまへ。ちまへ。客を尋ねる。巴直のまへ。外聞  
 よも。あつぐと。あつぐと。半女あつぐと。あつぐと  
 まへも。胡妻たまへも。あつぐと。雛妓妻浪をまへも  
 代と。あつぐと。あつぐと。あつぐと。あつぐと

光景の光景。廊中の色也。解花を闘ひまゐるの  
 穿ちの先哲の小冊小悉く略されをあるまじ  
 斯く禍の女仙八の巴玉の横上におあり。胡妻を  
 かの中におあり。酒落ちるる光景  
 毒月のごとく。又なるおあり。酒宴の二席花を  
 ちどまり。禍の女二會別漆とて茶をがひあり  
 胡妻二百支の床花をまゐり。その外妓目姫牛  
 僕替間弾婦多ふあるまじ。とていふまじある

花をまゐり。国骨しき拵び小。座中一統小勇  
 と本集のれ因口してぞんる。是ま仙八の斗ひ  
 あて。その私を。聖ぐしむるの方便あるべし。供  
 酒もや。おあり。此席庭の光景切上の幕  
 とあり。本間小床拵まされ。つぐまの拵かんよふト  
 礼美古実を乱す。ち拵めてを横上を  
 仙八の胡妻が中におあり。独り三浦空のうへ  
 安居し。只管多人禍の女が。首尾にぬれとんの

らちふ安堵の押のひもあうらう。さるふ又胡虜の  
 まど。終訓ぬらむすの。教まぬ初しき  
 梅の葉より小私入と。初まもさるぬ風情之仙八も  
 茶を風舞ふ遠る。胡虜が標枝とい。自然と  
 威あつと猛らうらる。究めて終る。若者の娘との押の  
 りま。妻の天変不値ひて。世を妻業枯ある。こが  
 身も押のひ的と。頻る不承懐の押のひ。か  
 くれ。胡虜も急と巡る。遭て父の行お見の

ちのく人昏夜々不絶がれば。と死仙八が次女を。ツク  
 えて人品の垂く。あぬ。りや。若ぬる。吾見わて  
 あり。りト。ふ。不問。死下ま。い。あり。傍をく。若を。て。烟  
 弟。付。ケ。ふ。た。持。賞。ぶ。う。魂。神。不。於。強。あ。ん。が。妻。ち  
 浅ま。死。性。根。を。も。う。乱。ま。さ。い。お。あ。れ。ど。の。あ。あ。り  
 聖。多。也。君。知。の。仙。八。あ。れ。が。ま。ま。も。後。守。る。ま。ま。也。も  
 あく。コレ。く。あ。り。が。い。ト。煙。弟。を。口。の。ら。モ。倡。妓。も  
 二。三。日。於。小。突。出。と。う。け。あ。れ。が。客。人。も。あ。ま。さ。る。も。

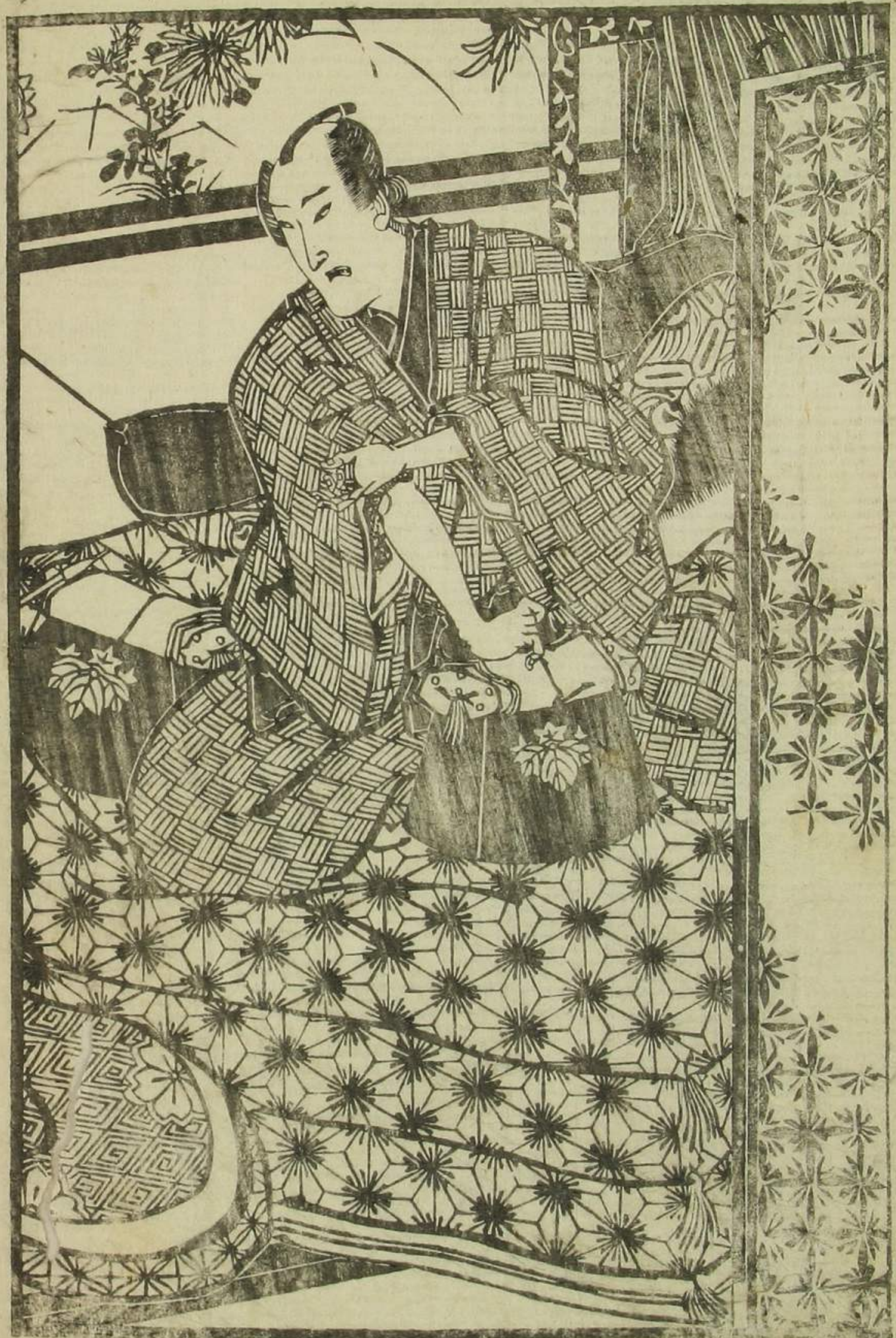


お嬢お嬢でもあつませうついでに。禿ついでに月ついでにちのついでに愛ついでにもついでに人ついでに〜  
 てうらついでに比ついでに廓ついでに〜ついでに中ついでにまついでに次ついでにあついでにつついでに〜ついでにほついでにらついでにのついでに勉ついでにめついでにの  
 ちついでにらついでにいついでにちついでにあついでにつついでにちついでに所ついでにやついでに大ついでに方ついでにのついでに善ついでに界ついでにのついでにいついでにりついでにでついでにいついでにざついでにん  
 さまついでにらついでに下ついでに。かついでに〜ついでに心ついでにきついでに塔ついでにのついでに序ついでに開ついでにきついでに不ついでに胡ついでに勇ついでにたついでにちついでにまついでにち  
 涙ついでにぐついでに〜ついでに那ついでに中ついでに〜ついでに〜ついでにもついでに同ついでに多ついでにあついでにりついでに。年ついでに終ついでに日ついでに終ついでにについでにすついでにじついでに不  
 巡ついでに〜ついでにあついでにひついでにたついでに心ついでに見ついでにあついでにるついでにうついでに下ついでに。十ついでに分ついでにらついでに不ついでに知ついでにのついでにいついでにらついでにれついでにばついでに初ついでに念ついでにの  
 容ついでにのついでにまついでにまついでに思ついでにもついでにあついでに〜ついでに。十ついでに二ついでにのついでにじついでにまついでにでついでに等ついでにのついでに和ついでにのついでに里ついでに不ついでに事ついでに  
 月ついでに〜ついでに人ついでに不ついでに知ついでにらついでにれついでにてついでに。妻ついでに不ついでに使ついでに〜ついでにあついでにまついでにいついでにまついでにあついでに〜ついでに子ついでにとついでにあついでにり

ちついでにらついでに〜ついでにとついでにあついでにまついでにいついでにまついでにいついでに人ついでにもついでにあついでに〜ついでに年ついでに々ついでに〜ついでに家ついでにのついでに清ついでにらついでに不  
 信ついでに持ついでにせついでにるついでに惡ついでに業ついでにのついでにあついでにらついでに不ついでに知ついでにらついでにれついでにてついでにはついでに巴ついでに島ついでに〜ついでに東ついでに〜ついでにいついでにも  
 実ついでにのついでに父ついでに〜ついでにあついでにらついでにやついでに兄ついでに〜ついでにあついでにらついでにのついでに妻ついでに不ついでにあついでにるついでに〜ついでにりついでにをついでに知ついでにじついでに不ついでに何ついでに年  
 行ついでに来ついでに〜ついでにとついでに終ついでにひついでに〜ついでに巡ついでに〜ついでにあついでにひついでに〜ついでに心ついでにきついでにらついでに〜ついでにらついでにのついでに勉ついでにめ  
 のついでにまついでにまついでにとついでにもついでに知ついでにらついでに〜ついでにとついでにらついでに〜ついでに人ついでに来ついでに〜ついでに心ついでにきついでにらついでに〜ついでにとついでに始ついでにめついでにてついでにはついでにらついでに〜ついでにら  
 廓ついでに〜ついでにとついでにまついでにいついでにとついでに終ついでにれついでにあついでにるついでに〜ついでにらついでにのついでにいついでに〜ついでに不ついでに仙ついでに〜ついでにはついでにもついでにあついでにらついでにを  
 接ついでに〜ついでに人ついでにのついでに行ついでに来ついでに〜ついでにとついでにあついでにらついでにのついでに流ついでにれついでに〜ついでに知ついでにれついでにぬついでにとついでにらついでに〜ついでに不ついでに知ついでにのついでに〜ついでにとついでに〜ついでにと  
 某ついでにのついでに〜ついでにとついでに〜ついでに初ついでに〜ついでにとついでに〜ついでに故ついでにあついでに〜ついでにとついでに〜ついでに宝ついでに画ついでにのついでに網ついでに市ついでに〜ついでにとついでに〜ついでにと







仙公  
 怪を  
 憐れ  
 手

藤を廻して土屋へ持来りて宝玉の内にあり  
お尋ねおまのど六ト。君をなすて置れまはす。人の  
場おまをいふもあく。出すも実さ人のふよう。只胡妻が  
おのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを  
おまのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを  
おまのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを

と且女の髪を少く。よめる程あり。大衆も喜ぶ。うや  
いふある。獲き武士の情けのあふびばけ人ふとを  
仙八が。さうう緊固の魂おの胡妻が。一と云の情けふ  
おまのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを  
おまのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを  
おまのういふ。使と母の男まのいと彩母いきまは  
お舞をれ胡妻も怒れる兄のあふびばけ人ふとを



十  
三

心も重<sup>おも</sup>ず。雛<sup>ひな</sup>ぬ妻<sup>つま</sup>浪<sup>なみ</sup>妻<sup>つま</sup>浦<sup>うら</sup>妻<sup>つま</sup>亦<sup>また</sup>。兔<sup>うさぎ</sup>女<sup>め</sup>波<sup>なみ</sup>男<sup>おとこ</sup>も  
ぐりも禍<sup>わざ</sup>の女<sup>め</sup>をとりまたて。酒<sup>さけ</sup>宴<sup>えん</sup>の身<sup>み</sup>を拵<sup>しら</sup>えと  
されの夜<sup>よ</sup>も百<sup>ひゃく</sup>億<sup>いっぴやく</sup>す。仙<sup>せん</sup>も胡<sup>こ</sup>旁<sup>ぼう</sup>もさら。別<sup>わか</sup>涼<sup>りやう</sup>とて  
床<sup>とこ</sup>花<sup>はな</sup>十<sup>じゆ</sup>又<sup>また</sup>を拵<sup>しら</sup>う。きつと着<sup>き</sup>ひりのおも。船<sup>ふね</sup>もる<sup>もる</sup>あり  
て。きつと吉<sup>きち</sup>世<sup>せ</sup>初<sup>はつ</sup>涼<sup>りやう</sup>の花<sup>はな</sup>を後<sup>あと</sup>。すの科<sup>せ</sup>  
田<sup>い</sup>毎<sup>まい</sup>の月<sup>つき</sup>を泳<sup>およ</sup>めく。天<sup>あま</sup>上<sup>かみ</sup>の衆<sup>しゆ</sup>花<sup>はな</sup>毒<sup>どく</sup>え<sup>え</sup>味<sup>あじ</sup>の楽<sup>らく</sup>もも  
られせむ。おの<sup>おの</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>替<sup>か</sup>間<sup>ま</sup>女<sup>め</sup>花<sup>はな</sup>者<sup>もの</sup>お<sup>お</sup>も  
ドヤ〜とまひして。さう〜の清<sup>きよ</sup>秋<sup>あき</sup>ををらす。けと死

心も重<sup>おも</sup>ず。雛<sup>ひな</sup>ぬ妻<sup>つま</sup>浪<sup>なみ</sup>妻<sup>つま</sup>浦<sup>うら</sup>妻<sup>つま</sup>亦<sup>また</sup>。兔<sup>うさぎ</sup>女<sup>め</sup>波<sup>なみ</sup>男<sup>おとこ</sup>も  
ぐりも禍<sup>わざ</sup>の女<sup>め</sup>をとりまたて。酒<sup>さけ</sup>宴<sup>えん</sup>の身<sup>み</sup>を拵<sup>しら</sup>えと  
されの夜<sup>よ</sup>も百<sup>ひゃく</sup>億<sup>いっぴやく</sup>す。仙<sup>せん</sup>も胡<sup>こ</sup>旁<sup>ぼう</sup>もさら。別<sup>わか</sup>涼<sup>りやう</sup>とて  
床<sup>とこ</sup>花<sup>はな</sup>十<sup>じゆ</sup>又<sup>また</sup>を拵<sup>しら</sup>う。きつと着<sup>き</sup>ひりのおも。船<sup>ふね</sup>もる<sup>もる</sup>あり  
て。きつと吉<sup>きち</sup>世<sup>せ</sup>初<sup>はつ</sup>涼<sup>りやう</sup>の花<sup>はな</sup>を後<sup>あと</sup>。すの科<sup>せ</sup>  
田<sup>い</sup>毎<sup>まい</sup>の月<sup>つき</sup>を泳<sup>およ</sup>めく。天<sup>あま</sup>上<sup>かみ</sup>の衆<sup>しゆ</sup>花<sup>はな</sup>毒<sup>どく</sup>え<sup>え</sup>味<sup>あじ</sup>の楽<sup>らく</sup>もも  
られせむ。おの<sup>おの</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>替<sup>か</sup>間<sup>ま</sup>女<sup>め</sup>花<sup>はな</sup>者<sup>もの</sup>お<sup>お</sup>も  
ドヤ〜とまひして。さう〜の清<sup>きよ</sup>秋<sup>あき</sup>ををらす。けと死

Handwritten notes or page number in the upper right margin of the left page.

十一

まゝに... 仙八... 物がある... 歩行と... 大指... 仙八...  
まゝに... 仙八... 物がある... 歩行と... 大指... 仙八...  
まゝに... 仙八... 物がある... 歩行と... 大指... 仙八...

仙八... 大指... 仙八... 大指... 仙八...  
仙八... 大指... 仙八... 大指... 仙八...  
仙八... 大指... 仙八... 大指... 仙八...

Handwritten notes or page number in the lower left margin of the left page.



仙八

ろんまゝを集めてかの大指おろしの皿のひびきを  
 仙八はあうあう若お水トリのそをキツカケ二福の女  
 懐中の羽巻より。小粒の百支包をよれ出  
 くるまゝあて。封を押し切り。かの大指おろしの上へ  
 まじりおせ。仙八はあておせ。小粒のひびきを  
 さうばいませをまゝあて。ひびきをひびき。ひびきをひびき  
 しを。ひびきをひびき。ひびきをひびき。ひびきをひびき  
 あんどの。教習をひびき。ひびきをひびき。ひびきをひびき

仙八はあうあう若お水トリのそをキツカケ二福の女  
 懐中の羽巻より。小粒の百支包をよれ出  
 くるまゝあて。封を押し切り。かの大指おろしの上へ  
 まじりおせ。仙八はあておせ。小粒のひびきを  
 さうばいませをまゝあて。ひびきをひびき。ひびきをひびき  
 しを。ひびきをひびき。ひびきをひびき。ひびきをひびき  
 あんどの。教習をひびき。ひびきをひびき。ひびきをひびき

サトニキ三

里八女養老おらぬ吉ト。形くふ配分あるせが  
子の。骨トとらり。完ふののあぐ。押一敷き  
吉凶の時の運次ト銘く。著る播く。まひの  
おまじが。いりう。トれを。あられ。若ひ若。存ハ  
文ト。ニッ。あじ。ト。よろ。か。茶。あ。の。の。あ。う。く  
ト。ニッ。あ。れ。ぐ。お。ぬ。秀。秀。吉。も。ト。ニッ。と。受。徳。ま。る。こ  
封。間。第。の。舟。も。白。万。里。カ。カ。情。女。の。五。條  
い。び。も。カ。カ。カ。ま。げ。ト。カ。カ。ま。う。へ。い。あ。り。な。し。万。里。カ。カ

これ入奇妙。里八女。里八女。里八女。一向。お  
は。な。し。し。ま。す。後。き。く。い。れ。り。代。り。を。頂  
戴。ま。す。ひ。が。ま。が。海。ぬ。ト。子。塩。皿。を。出。き。仙。入。あ。ん。で。の  
それ。を。あ。ら。ま。の。養。老。人。ひ。や。ち。ら。面。白。く。ぬ。あ。ら。ま。を。出。し。て  
あ。ん。で。あ。ら。ま。の。代。り。を。し。ま。さ。し。め。い。ま。す。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。  
ど。く。あ。ら。ま。の。里。八。女。の。奇。妙。カ。カ。カ。の  
養。男。ひ。は。方。ア。ニ。ま。の。目。の。な。ら。か。ら。海。ら。ぬ。り。と  
う。す。ま。ら。し。カ。カ。カ。ト。あ。ら。ま。の。里。八。女。の。奇。妙。カ。カ。カ

猪(イノ)出す(イノ)里八(りやち)が(が)情け(なさ)地(ぢ)非(ひ)ぬ(ぬ)も(も)ん(ん)ぬ(ぬ)され(され)て  
○あれ(あれ) 猪(イノ)猪(イノ)つ(つ)り(り) 後の女(ごのま)に(に)里八(りやち)が(が)宝(たから)が(が)懸(か)いの(いの)里八(りやち)  
推(お)希(し)も(も)さ(さ)れ(れ)ませ(ませ)。あ(あ)ゝ(ゝ)大(お)多(た)の(の)仙(せん)八(やち)十(じ)人(にん)が(が)か(か)り(り)  
た(た)ら(ら)然(しか)ら(ら)ぬ(ぬ)。妻(つま)は(は)せん(せん)お(お)ぢ(ぢ)は(は)昔(むかし)か(か)ら(ら)あ(あ)が(が)ら(ら)ら(ら)ふ(ふ)  
さ(さ)ら(ら)ぬ(ぬ)。あ(あ)と(と)中(ちゆう)人(にん)を(を)入(い)れ(れ)て(て)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)て(て)上(かみ)へ(へ)上(かみ)せ(せ)ら(ら)  
ト。大(お)指(さし)お(お)り(り)の(の)血(ちゆう)の(の)傍(そば)に(に)あ(あ)る(る)里八(りやち)は(は)塩(しほ)を(を)出(い)す(す)ま  
が(が)ら(ら)。モ(も)と(と)妻(つま)は(は)せん(せん)お(お)ぢ(ぢ)は(は)あ(あ)ら(ら)ば(ば)口(くち)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)ふ(ふ)ん(ん)ふ(ふ)  
の(の)疑(ぎ)い(い)は(は)せ(せ)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)

猪(イノ)の(の)を(を)お(お)り(り)い(い)ま(ま)へ(へ)と(と)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
境(さかい)目(め)の(の)猪(イノ)と(と)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)  
に(に)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
里八(りやち)は(は)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
さ(さ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
て(て)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
の(の)疑(ぎ)い(い)は(は)せ(せ)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)  
さ(さ)ら(ら)ぬ(ぬ)は(は)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)ま(ま)の(の)妻(つま)を(を)入(い)れ(れ)ぬ(ぬ)す(す)る(る)

サト三三三



主人のさふ  
せんハ  
巴樓の  
妙計の  
あまびを  
びくす



おとしし入る。血のあつとを纏つて。流をえれが跡  
たる。令七十あ余りあり。これ幸河とあれが。令のまき  
して流をまき。大指おりのけく。と浮妻きゆ  
おひるをな毎ふ。令の流く。と水。形へのこ  
まるものあり。是れが。僅うと十あをりりの。令  
あて。人目あり大造おり。人目。令のあらり。形を  
あて。おとせ。まゆあれども。依佐の恨をあらを  
実ふ。大造のたびとら。は。仙八が。文。智。形。他

の豊原を。笑まざる。のれあり。是をえ彼を又  
おのつけ。かの初。仙八が。を。ひ。せん。刻  
巴毎の。ま。並は。序。上。出。せ。ま。づ。う。ら  
お。ま。く。あ。の。行。を。ま。せ。廓。中。巴。毎。の。注。判  
を。ま。ら。せ。ら。る。お。疑。ひ。あ。つ。後。の。う。ら。ま。の。ま。ら。る。う  
されが。胡。毛。男。が。ん。中。ら。ひ。仙。八。を。使。と。し。て。忠。告  
父。の。お。お。見。の。ま。の。う。ら。ま。と。ら。ま。ら。る。う  
ま。づ。お。ひ。の。胸。を。ま。す。か。ま。ら。る。あ。れ。察。り。も。備

ナトニキ...

...



三曲廊日記朝霧公傳卷三終  
二の三の... 後の... 女の... 雪... 階... の... 乃... を... 雪... の... び... たる... 存  
二の三の... 後の... 女の... 雪... 階... の... 乃... を... 雪... の... び... たる... 存  
胡妻... づ... ろ... ろ... ぶ... っ... の... ひ... ひ... っ... っ... っ... ろ... ろ... が... ひ... の  
せ... ぎ... ろ... ろ... ろ...

三曲廊日記朝霧公傳卷三終



